

氏名 三 戸 敏 正

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 甲 第 496 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和55年3月31日

学 位 授 与 の 要 件 医学研究科内科系内科学専攻
(学位規則第5条第1項該当)

学 位 論 文 題 目 肺癌の治療に関する研究

第1編 実験肺癌化学療法における各種免疫賦活剤併用に関する検討

第2編 進展期肺癌の治療における Neocarzinostatin
の検討

論 文 審 査 委 員 教授 長島 秀夫 教授 大藤 眞 教授 折田 薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

(第1編) 癌免疫化学療法を行う際の、化学療法との関連における非特異的免疫賦活剤の併用時期に関して検討を加えた。BDF₁ マウスにおいてLewis 肺癌を用い、Cyclophosphamide, ACNUによる化学療法に免疫賦活剤としてOK-432, PS-K, Bestatin, Levamisoleを投与時期を変えて併用し、その投与時期、投与期間により延命効果ならびに免疫賦活活性に著しい差異を生じ、その至適投与時期はそれぞれの免疫賦活剤により異った。

(第2編) 扁平上皮癌を中心とする進展期肺癌に対しNeocarzinostatin (NCS) による化学療法を行い、14例中1例に明らかな有効例を認めた。副作用としては、上部消化器症状、発熱などの他に骨髄抑制を認めたが、いずれも可逆的でありかつ許容範囲内であった。NCSの移行、推移に関する薬理学的検討も同時に行い、one shot 静注後薬剤の血中からの急速な消失と尿中への移行が観察され、同時に胸水中において高濃度の薬剤が検出された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌の化学療法に免疫賦活剤を併用する場合の治療効果を検討したもので、BDF₁ マウスのLewis 肺癌を用いて免疫賦活剤の作用機序、特徴などを考慮して投与することによりよい治療効果がえられることを動物実験で明らかにした。また、Neocarzinostatinの進展期肺癌治療の有効例をあげるなど肺癌治療に寄与する知見を得たものとし価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。